



第82号 町長のしごと日記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【本格的に東京・札幌方面の仕事が動き出す・・・】

季節の花々もシャクナゲの花から紫陽花の花へと彩りを変え、色鮮やかに私たちの目を楽しませてくれております。

道路沿いに咲く紫陽花の花が青・紫・ピンクなど色鮮やかに咲き誇っており、町長室でも小ぶりの珍しい形をした淡いピンク色の可愛らしい紫陽花の花が咲いております。

六月十五日（水）に札幌市の第二水産ビルにおいて、公益社団法人北海道さけ・ます増殖事業協会第十回定時総会が開催され出席させていただきますでしたが、昨年・今年とさけ・ます増殖事業は大変厳しい状況となっております。

そのような中、六月十六日（木）に北海道漁業協同組合連合会（北海道ぎよれん）の総会が開催され、川崎会長が勇退し、新たな会長に当町の福島吉岡漁業協同組合の阿部組合長が選出

されております。

北海道ぎよれんの令和三年度の販売・購買の総取扱高は、2千851億円となっております、地元の漁協と比べて規模が桁違いに大きくなります。

これまで福島町のような小さな町から全道の漁協が構成員となる連合組織のトップに就任するということは稀なことで、道南はもとより町の水産振興に寄与するものと期待もふくらみ、改めて会長就任のお祝いを申し上げます。

六月二十三日（木）に、青少年交流センター安全祈願祭が行われ、溝部議長はじめ来賓の方々の参列をいただき、工事の安全を祈願することができました。工事関係者のご協力に改めて感謝申し上げます

私も町長として、はじめて鍬入れの儀式を体験させていただき、日本古来の伝統を肌で感じる事ができ

たひと時でした。

青少年交流センターは、福島商業高等学校の入学生等を受け入れることとしており、名称を「新潮学舎」と命名しております。

北海道をはじめ道外からも生徒を募集することで、高校の存続を維持し、全国から集う若者たちが福島町に新たな潮の流れを創り、学び合いを通じて成長してくれるようにと、強い願いを込めて命名されております。

六月二十五日（土）は、福島保育所の運動会が開催され、ひさびさに子どもたちの楽しそうな笑顔に触れることができました。

六月ごろから徐々に札幌・東京方面の出張が増えましたが、七月に入り一気に仕事がコロナ禍前のような全開モードとなっております。

七月十一日（月）に北海道マリンビジョン21促進期成会役員会及び総会、同十

四日（木）に北海道市町村長交流セミナー、翌十五日（金）に防災・危機管理トップセミナーが札幌市で開催され、出席させていただきました。

また、七月十三日（水）に、三年ぶりに戦没者追悼式を開催することができました。この二年間、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止の状況が続いておりましたが、ようやく戦没者の御霊に哀悼の誠を捧げることができて、ホッとしております。

今、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻など、各地で紛争が絶えない状況です。

世界のどこかで、この瞬間、罪のない子どもたちが戦争の犠牲となっております。日本は悲惨な太平洋戦争を経験し、世界で唯一の被爆国として、世界の恒久平和を願うものです。